

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は100年を超える歴史のもと、働きながら学ぶ生徒への工業教育を担ってきた。今後とも、これまで培ってきた伝統と教育活動を生かし、総合学科として、工業関係の施設・設備を有効利用できることを最大の利点とし、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践する。また近年は、勤労青年は減少し不登校経験者、他校からの転学者、支援が必要な生徒、日本語を母国語としない生徒等、多様な生徒のニーズに応えつつ、それぞれの生徒の人格完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として地域社会のリーダーになり得る社会人を育成する。

- 1 府民の期待に応え、魅力ある定時制高校として、生徒、保護者、地域住民、府民などに広く開かれた教育活動を実践する。
- 2 定時制高校及び総合学科である本校の特色を生かし、多様な生徒の興味・関心に応じた教育活動を実践する。
- 3 教師と生徒が信頼関係をもち、こころの通った生徒指導に努め、教育活動全体をとおして豊かな国際感覚や人権意識を身につけた人権尊重の教育を推進する。
- 4 生徒、保護者、府民の信頼に応えるため、教職員自ら意識改革をより一層進め、服務についても公明正大を期する。

2 中期的目標

次の取組みにより、働きながら学ぶ生徒の学力保障と夢の実現を図る。

1 キャリア教育のさらなる充実

(1)社会人としてのスキルアップをめざす

- ア:人として、社会組織を形成する社会人として、基本中の基本である挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。
イ:全教科において社会の中で生活し多くの人と関わりを持つという「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施する。

(2)キャリア講演会・研修会の充実

- ウ:外部の人材による講演会や体験研修会を開催し、社会人としての職業観・勤労観の育成をより進める。
※学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を80%以上にする。

(3)アルバイト経験の充実

- エ:就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせるとともに、就職の進路選択のひとつとさせる。

(4)進路指導の充実

- オ:生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定を続け、今後3年間の目標とする。
カ:就職のみならず、進学希望の生徒の実現に向けた指導を行い、28年度4名であった進学者数を毎年1名以上増やす。
キ:卒業時の進路未定率を10%以下に減少させる。また、第1学年次から進路指導をより一層展開し、(28年度13.3%)29年度10%以下、30年度5%以下、31年度0%をめざす。

2 基礎学力の定着と向上

(1)基礎学力の向上

- ア:わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やすとともに、校内でITC教育研修を行う。
※学校教育自己診断の授業満足度を、29年度、75%、30年度、78%、31年度、80%以上を目指す。
イ:数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行い、理解度の達成感を獲得させる。

(2)進級・卒業率の上昇

- ウ:生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。
※特に新入生に関しては、出身中学、地域機関等との連携をより一層図り、出席率や進級率の向上に努める。
エ:卒業率・進級率を前年度比5パーセント以上向上させる。

3 自尊感情の向上

(1)情操教育の推進

- ア:感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として図書館利用や書籍等の活用を進める。
(始業前の図書館利用や、職員室内の書籍の貸し出しの増加をめざす。)
イ:経験を通じて何かを感じることができるよう、アルバイト体験や、職業体験等の実施。

(2)学校生活の充実と活性化

- ウ:生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。
エ:HR活動(体育祭、文化祭、球技大会等)を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。
オ:定時制・通信制高校生秋季発表大会、エコデンレースへの参加。

4 生徒支援と校内安全体制の確立

(1)生徒支援委員会の活性化

- ア:教職員全員で生徒情報を把握し、定期的開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。
イ:生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。

(2)「安全で安心な学校づくり推進事業」の取組みと、生徒支援委員会、危機管理委員会を活用した対策の推進。

- ウ:「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。
エ:生徒支援委員会、危機管理委員会を中心に、生徒が安心して学校に登校できるよう、生活基盤の安定ができるよう事前事後対策・チェックを行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】 「学校へ行くのが楽しい。」・・・51.0% 「自分の学級は楽しい。」・・・63.0% 「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」・・・70.0% 「悩みや相談に親身になってくれる先生が多い。」・・・66.0% 「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」・・・80.0% 今年度は、不登校、再履修、編転入等のさまざまな問題や状況を抱えた生徒の受け入れが多く、各学年担任を中心に中学校からの情報提供や在籍した学校からの情報、また家庭訪問や日常の電話連絡を行い、生徒の学校への定着につなげた。学校の状況も保護者に知っていただくため、4月当初、9月の長期休暇明けには保護者、生徒との個別面談を実施した。 生徒の出席率の向上をめざし、生徒支援員会を活用し生徒の状況の共通理解、生活環境の情報を区役所等関係機関と連絡を取りながら、安全で安心な学校環境の整備を進めた。</p> <p>【学習指導】 「授業はわかりやすく楽しい。」・・・51.0% 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」・・・60.0% 「教え方に工夫をしている先生が多い。」・・・60.0% 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」・・・100% 各学年4月当初に、「学びなおし授業」を展開し、自らの学力を知るとともに、どこで学習に躓いたのかを確認させ、その後の授業にいかしている。基本的に基礎学力の定着が学力の向上につながることから、モジュール授業の継続、放課後の20分間の個別指導を行い充実させた。「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」の肯定的意見が100%であり、生徒によりそった学習指導がおこなわれている。</p> <p>【生徒指導】 「先生は協力して生徒指導に当たっている。」・・・70.0% 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談する。」・・・57.0% 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。」・・・65.0% 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に相談してくれる」・・・66.0% 「授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある。」・・・66.0% 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」・・・68.0% 毎日の校門での登・下校指導や授業中における巡視等で担任のみならず、教職員が生徒を注視し、話しかけることから生徒との人間関係が発展し相談に乗ったりすることができている。</p> <p>【進路指導】 「将来の進路や生き方について考える機会がある。」・・・65.0% 「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」・・・75.0% まだまだ、卒業後の進路について決め切れていない生徒がいるが、年2回の進路体験を開き少しでも卒業後の進路について考えさせる機会を設けている。1月末現在学校斡旋で12名が就職内定、5名が進学先を決定した。</p>	<p>第1回（平成29年6月13日） （平成28年度卒業生の進路について） <u>学校紹介で11名の生徒が就職したが、5月末日で2名が退社した。</u> ・過去においては終身雇用制度が定着しており定年まで勤めるのが常識であった。しかし、昨今においては転職が悪しきことと判断されない時代となっている。 ・これから生活していくうえで、働き収入を得ることが必要である。 ・在籍人数が少ないことから、一人ひとりに寄り添って指導はできていると考える。 ・卒業までどのような個性を持っているのか見極める必要がある。 ・夢もなく生活をするために働く生徒もいるだろう。それが現実なのでは。生徒個々に応じた職種を探し希望する職種に就いて働くことが理想ではあるが。 ・子供がどのような考えで進路希望を持っているのか理解できない。もっとしっかり自分自身を見つめて欲しい。 ・過去には工業高校は製造関係に就職することが、決まっていたが、工科高校になり、総合学科としてさまざまな選択肢がある。 ・在学中に数多いアルバイトを短期に紹介し、生徒自らが合った業種を選び、そのまま就職する方法もある。 ・アルバイトを紹介しても人間関係のことから続かない生徒もいる。 ・在学中での人材育成は大変だと考える。目的意識をもたせるための指導が必要だと考える。 ・今の生徒の現状を変えさせるために、個々の現状の認識とそれを自らの意思で変えていこうとする指導が必要ではないか。</p> <p>第2回（平成29年10月28日） （生活実態調査から、本校生徒の実態とその現状） <u>在校生徒数は179名ではあるが、この調査の回答数からも常時出席している生徒は100名を下回る。選抜検査を受験した後も一切学校に登校しない生徒がいる。</u> ・現在の状況では、フリースクールに通い、通信制の私学の学校で単位を修得し、高校卒業の資格を持つ生徒もいる。 ・不登校の生徒が、地域の施設に通っている。地元中学は不登校で行っていないが、地域の福祉センターには毎日来ている。 ・中学から定時制高校に興味のない生徒を登校させることは不要かもしれない。しかし、高卒でないと、就職のための試験も受けられないのが現状である。 ・会社には中学卒業の社員も若干名いるが、高校卒業のための資格や、社会性の指導等、学校に押し付けるのは大変だ。 ・高校への進学率が98%台の中、定時制のあり方が大きく変わった。過去は仕事をしなければならぬ生徒が定時制に来ていた。 ・一度中学卒業後、社会に出てみるのも良いのではないか。一度まず現場で経験し、学び直さねばと覚悟することもある。定時制では、現役中学卒業生を採らない制度があっても良いのでは。まずは働き、そこから学び直すことも良いのでは。 ・不登校・引きこもりの生徒は社会へ出ていくことが怖い。前が見えていない。将来のためにも職場体験ができる機会を設けてほしい。 ・中学校や関係機関と連携し情報収集し、不登校からの生徒の脱出を支援できたらと考えるが、明確な方法もない。少しでも社会性を身に付けさせたいが。</p> <p>第3回（平成30年3月3日） （学校協議会の設置について） ・平成29年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正されたことにより、平成30年度より学校協議会を移行させ、学校運営協議会を設置する。 ・3月末には規則整備され、4月から学校運営協議会が新たに設置される。 ・委員の方々にはまた継続をお願いする。手続きは4月に入れば始める。 （平成30年度学校経営計画(案)について） ・特にキャリア教育を充実させる。第1学年からの取組みや体験を増やし「働く」意識を持たせる。アルバイト実態調査を行い生徒の労働環境の把握に努める。 ・健康教育の推進 生徒、教職員が健康で明るい生活を送れるよう健康食育教育を充実させる。 （保健部 平成29年度総括） ・総合健康診断においては、本年度から実施曜日を土曜日から木曜日に変更したことから出席率が向上した。 ・歯科検診受検者は92%であった。また、虫歯保有率が68%である。そのうち虫歯の本数が5本以上の生徒が34%であり、治療がされていない生徒が多い。 ・家庭環境に大いに影響を受けているのではないか。どのような指導を。 ・声掛けを中心にやっている。担任やそれぞれで話をしている。 ・性教育の実施方法はいかがか。 ・特に思春期保健相談員の方に「妊娠、性感染症、避妊等」についてわかりやすい口調で生徒に説明していただいている。 ・LGBTのことも考えていかなければならない。 （卒業式に出席して） ・卒業生代表の答辞が素晴らしかった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①キャリア教育のさらなる充実	(1) 社会人としてのスキルアップをめざす (2) キャリア講演会・体験会の充実 (3) アルバイト経験の充実 (4) 進路指導の充実	(1) ア：基本的な生活習慣の基礎である、また社会人として必要な挨拶の励行運動を、登下校時・校内巡視時や各教科指導の中で継続する。 イ：全教科に「コミュニケーション能力」・「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施し、将来、社会の中で対応できるよう基礎知識、技能を身につけさせる。 (2) ウ：外部の人材やの講演会や体験研修を開催し、社会人としての職業観・労働観の育成をより進める。 (3) エ：就労体験のため、アルバイト斡旋を行い、在学中のアルバイト体験率を向上させ、生徒に自信をつけさせるとともに、就職の進路選択のひとつとさせる。 (4) オ：生徒の就業意識高揚と進路選択力の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の100%内定をめざす。 カ：卒業時の進路未定率を10%以下に減少させる。	ア：学校教育自己診断の基本的な生活習慣の確立の満足度を(28年度74.7%)78%にする。 イ：学校教育自己診断の授業で自分の考えをまとめたり発表に機会がある満足度を(28年度39.7%)50%以上にする。 ウ：講演会の感想や学校教育自己評価の「将来の進路や生き方について考える機会がある」を(28年度79.4%)80%以上にする。 エ：在学中アルバイト体験率を(28年度78.0%)を80%以上にする。 オ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率(28年度100%)100%継続。 カ：進路未定卒業生徒率(28年度13.3%)10%以下にする。	ア：「基本的な生活習慣の確立満足度」は64.0%・・・(△) 生活状況の把握と指導がより必要。 イ：「授業で自分の考え方をまとめたり、発表する機会がある」60.0%・・・(◎) ウ：「将来の進路や生き方について考える機会がある。」65.0%・・・(△) 第1学年からの指導の充実が必要。 エ：アルバイト体験率86.0%・・・(◎) オ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率100.0%・・・(◎) カ：進路未定卒業生徒率8.3%・・・(◎)
②基礎学力の定着と向上	(1) 基礎学力の向上 (2) 進級・卒業率の上昇	(1) ア：わかる授業を実践するため、ICT機器を利用した授業展開を増やすとともに、校内でITC教育研修をおこなう。 イ：数学や国語の個に応じた反復指導を、徹底したモジュール授業で1学年を中心に行い、理解度の達成感を獲得させる。 (2) ウ：生徒本人や保護者との連携を密にし、出席率の向上を図る。 エ：卒業率・進級率を前年度比5パーセント以上向上させる。	ア：学校教育自己診断の授業満足度を(28年度66%)70%以上にする。 イ：モジュール授業の個別学習教材の作成と受講人数を(28年度3人)10人以上とする。 ウ：担任を中心とした教職員の家庭訪問回数。 エ：卒業率・進級率(28年度58.9%)60%の達成。	ア：自己満足度59.0%・・・(△) まだまだ伝導的な指導が多く、ICT等を用いた授業の研修。 イ：モジュール参加生徒当初10名→最終6名・・・(○) 継続することへの指導が必要 ウ：教職員の家庭訪問回数89回・・・(○) エ：進級率60.5%・・・(◎)
③自尊感情の向上	(1) 情操教育の推進 (2) 学校生活の充実と活性化	(1) ア：感受性向上を図るため、図書に親しむ環境として、図書館利用や書籍等の活用を一層進める。 イ：経験を通じて何かを感じることができるようアルバイト体験や職業体験の実施。 (2) ウ：生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。 エ：HR活動(体育祭、文化祭、球技大会等)を生徒指導の軸にできるような取組みの充実を図る。 オ：定時制・通信制高校生秋季発表大会、エコデンレースへの参加。	ア：図書館利用者数(28年度20人)年間40人以上、書籍貸出数(28年度95冊)100冊を目標とする。 イ：在学中アルバイト体験率を(28年度78.0%)を80%以上にする。 ウ：大阪府立実業高等学校定時制通信制総合体育大会への2種目出場と入賞成績記録への挑戦。 エ：学校教育自己診断の文化祭・体育祭の満足度を(28年度体育祭67.0%文化祭66.7%)70%以上にする。 オ：同じ定時制、通信制の高校生と集い発表を行うこと、また、工業科目の選択を生かし、その技術を披露し自尊感情の向上をめざす。	ア：図書館利用者数55人 書籍貸出数22冊・・・(△) イ：アルバイト体験率86.0%・・・(◎) ウ：総合体育大会への出場は1種目成績は優勝を修めた・・・(○) エ：文化祭の満足度68.0% 体育祭の満足度69.0% ・・・(○) 雨天の中での文化祭の開催であった。生徒は協力しがんばったが、満足度は68.0%にとどまった。 オ：秋季発表大会は指導を続けたが、生徒の都合により不参加となった。エコデンレースは2チーム出場・・・(○)
④生徒支援と校内安全体制の確立	(1) 生徒支援委員会の活性化 (2) 「安全で安心な学校づくり推進事業」の取組みと、生徒支援委員会、危機管理委員会を活用した対策の推進。	(1) ア：教職員全員で生徒情報を把握し、定期的開催する生徒支援委員会において、教職員間での情報共有を図る。 イ：生徒支援委員会で取り上げた生徒の支援体制を充実させ、必要な場合は関係諸機関と連携を行う。 (2) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」の研修成果を活用し、教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。 エ：生徒支援委員会、危機管理委員会を中心に、生徒が安心して学校に登校できるよう、生活基盤の安定ができるよう事前事後対策・チェックを行う。	ア：1年個人面談の実施と高校生活支援カードへの記入充実具合の継続。 イ：生徒支援委員会の開催回数を(28年度11回)毎月開催、地域福祉関係等連絡会への参加を(28年度3回)3回以上とする。 ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」への研修参加回数(28年度延べ37回)及び校内研修実施回数を(28年度2回)前年度以上とする。 エ：危機管理委員会が必要な場合の開催(開催回数0が目標)	ア：1年個人面談以上に各学年で高校生活支援カードを活用し、担任のみならず、学年、教科等での指導の幅を拡げた・・・(◎) イ：生徒支援委員会は毎月の開催。地域(大正・西成区)の福祉関係等連絡会へ5回参加・・・(○) ウ：「安全で安心な学校づくり推進事業」への参加回数37回 校内研修実施回数3回 ・・・(○) エ：危機管理委員会の開催回数0回 ・・・(◎)